

図書館だより

埼玉県立図書館

第 47 号

平成 3 年 3 月 1 日

編集 埼玉県立図書館
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館
館長 須藤 和 敬
浦和市高砂3-1-22
電話 048(829)2821

《埼玉の植物》

(主な内容)

- 野草と親しむ季節 (井上光三郎).....(1)
- 埼玉と森林と風土(永野 巖).....(2~3)
- 埼玉山草会の歩み.....(4)
- 本のひろば.....(5~6)
- 3月~6月の主な催し物.....(7)
- 県内の野草.....(8)



カタクリ(ゆり科)



フキノトウ

提供/井上光三郎氏

野草と親しむ季節

井上光三郎

淡い緑色のフキノトウが、土を割って頭をもたげているのを見ると、ああ春がそこまできたのだという喜びでこころがはずむ。

この花のつぼみをむしり、バラバラと味噌汁に入れ、ほろ苦いその香気をたのしんだり、湯豆腐の鍋などに散らせば、早春の気は、目からだけでなく、鼻からも舌からも、しんと身体中にみなぎりわたるばかりだ。

こんな雅味を味わうには、ハウス栽培のものでなく、原野や田の畦などから、直接摘み採ってきた露の臺でなくてはならない。

また、早春を告げる花にカタクリがある。古名はカタカゴ。その名はこの花を傾いた籠に見立てたものだろうと云われている。

もののふの八十をとめらが汲みまがふ寺井のうへの堅香子の花(万葉集巻19) 大伴家持は、この花を優婉この上なく詠んでいるが、紅紫六弁の花びらが風にやさしく揺れているのを見れば、万葉の歌人ならずとも一首詠じたくなるといえるであろう。

(秩父市在住・写真家)

2012345678913012345

埼玉と森林と風土

永野 巖

埼玉県は東西約一〇三、南北約五二、面積約八〇〇平方、で、都道府県中三七位の小さな海なし県です。ほぼJR八高線を境に西は秩父山地で、東側が埼玉平野です。平成元年の総人口は約六三〇万人ですが、その大部分が埼玉平野に住んでいることになりました。

今、県民に問われているのは、心の豊かさと経済発展のバランス、つまり自然との調和をどうはかるかということです。そのためには埼玉の風土と森林の特徴を知ることが大切です。ここでは、身近な里の森林（暖温帯の平地と山地、中間温帯）についていくつか紹介することにします。

砂丘林

砂丘といえば、鳥取砂丘のような海岸砂丘を思い浮かべる人が多いと思います。ところが埼玉平野の東部を流れる古利根川流域にも砂丘群が分布しています。なかには長さ四、幅三〇〇、河床から高さ約二〇にも達する大きな砂丘も知られています。

まず、この河川に沿って分布する砂丘を河畔砂丘といいます。

河畔砂丘は古利根川に積った川でも知られていますが、古利根川流域の河畔砂丘は大きな、分布域とも群を抜いています。

河畔砂丘は古利根川に積もった川砂が、埼玉平野を吹き抜ける赤城おろしによって吹き寄せられてできたものです。これらの砂丘群が形成されたのは平安時代から江戸時代といわれています。

古利根川流域の人々は砂丘地帯を志多見原（加須市）とか大輪原（鷲宮町）といった具合に原を末尾につけて呼んでいます。原とはススキ草原ではなく、森林を意味します。古利根川流域には砂丘地帯以外に森林がありまません。森林資源の少ない流域の人々にとって砂丘地帯の森林は砂防を兼ねた農用林として大切にされてきました。

砂丘地帯の森林は、アカマツ林、コナラ林、クヌギ林、イヌシデ林が主なものですが、圧倒的に多いのは

アカマツ林です。昔は巨大なアカマツ林がうっそうと繁っていました。今のアカマツ林は第二次世界大戦後に植林されたもので、その多くはマツノサイセンチュウの大きな被害を受けています。



アカマツ林(加須市志多見砂丘)

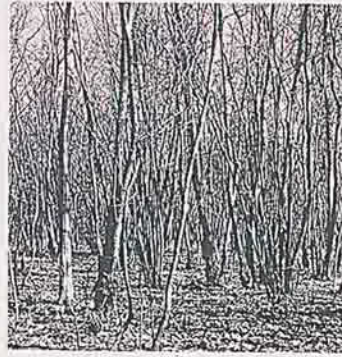
河畔砂丘林は砂地でありながらヒサカキ、ヤマツツジ、ムラサキシキブ、アカシデ、リョウブ、シユンランのようなローム台地の雑木林に多い植物の種類を欠き、エノキやムクノキのような温帯とところを好む植物が多いのが特徴です。

埼玉平野の自然風土の厳しさを物語、河畔砂丘林をなんとか保存したいと、多くの人が願っています。

雑木林と人々の暮らし

平地林の代表はローム台地上の雑木林です。雑木林の中核はなんと

先人達の雑木林を守る激しい運動が絶え間なく繰り返されてきたのもそのためです。



雑木林(三芳町)

冬暖かき高麗の里

過去五十七年間の年間降水量を調べてみると、児玉町を中心とする県北部では二三〇〇以下ですが、南部の入間川流域では二七〇〇を超えています。

なかでも都県境である名栗川流域では一八〇〇〜一九〇〇に達しています。この四〇〇の雨量の差がわずかに四〇しか離れていない児玉・神川地方の風土と森林に大きな影響を及ぼしています。

森林の分布に決定的なタメージをあたえるのは水分の欠乏、乾燥です。気温の低下は植物にとって生理的乾燥化を意味しますから、同じ寒さで

も雨量が多ければ、それだけ乾燥化を防ぐことができるからです。

児玉・神川地方の山々にはアカマツ林とコナラ林が多く、神社の森もケヤキ、ムクノキ、エノキといった落葉広葉樹が中心です。しかし、入間川流域の山々の九〇％以上は黒々とした植林によっておおわれています。

また、鎮守の森もタブノキ、スゲジイ、ウラジロガシ、ツクバネガシのような常緑広葉樹（照葉樹）が多く、児玉・神川地方とは対象的です。

江戸時代初期から名栗川と高麗川を中心とする入間川流域のスギは西川材と呼ばれ、紀伊半島の吉野杉や宮崎県の欽杉と並んで日本の三大名産地として知られてきました。スギの生育にとって一番大切なことは水分条件、つまり雨量が多いことです。西川材の中心地が県内で最も降水量が多い入間川流域であるのもうなすけます。

雨量が多く、冬暖かい地方は植物だけでなく、南方系の動物にとってもよい棲家のはずです。近年、この地方の開発が急速に進んでいるのも単に都心に近いという利便性だけでなく、人間の生活環境としても恵まれているからといえます。

モミ林と冬の秩父盆地



高麗聖天の鎮守の森

秩父盆地は銚子の海から約一五〇、周囲を山に囲まれた典型的な内陸性盆地です。盆地の夏はむし暑く、冬は冷え込み、晴天の日が続きます。盆地をとりまく山々はコナラ林とアカマツ林が大部分で、暖温帯を代表するウラジロガシ林やツクバネガシ林のような常緑広葉樹林（照葉樹林）は分布していません。常緑広葉樹林としては、わずかにシラカシ林とアラカシ林が日当りのよい南向きの急斜面に小さな集団をつくっているにすぎません。

また、ブナ、ミズナラ、ナツツバキ、ヤマボウシ、シオジ、カツラのような冷温帯林を指標する樹種も見られません。このことから、秩父盆地と盆地をとりまく低い山々は暖温

ってもコナラ林です。コナラ林は縄文時代以降絶えることなく台地上で生き続けてきました。カシ林やシイ林と違って関東ローム層のような貧栄養な土壌にも耐える強い性質をもっているためです。

雑木林（コナラ林）の大規模開発は承応二年（一六五三）の野火止新田開発が最初です。次いで、寛文六年（一七二六）の水野の新田開発（狭山市）、元禄七年（一七〇四）の三富新田開発（所沢市・三芳町）と続きます。これらの新田開発は、近世開発史上、まれにみる困難な大事業で、それはまさに開拓者の飢えと渴きとの戦いでもありました。

永い歴史のなかで、先人達の生活に必要な資源のすべてを供給してきたのは雑木林です。雑木林は一年間に一回当たり、落葉として約四、林木として約五の有機物を生産します。生産されたこれらの有機物は、毎年肥料として耕作地に運ばれ、林木は十三〜十七年周期で伐採されて燃料資源として利用されてきました。このように自然風土の厳しい埼玉平野で生きた先人達にとって、毎年一回当たり約九の生産力をもつ雑木林の存否は死活の問題でもあったわけです。寛文六年（一七二六）以降、

帯と冷温地帯にはさまれた中間温帯に位置していることがわかります。

中間温帯は海から遠く離れた内陸部山地で、冬期、雨や雪が極端に少ない乾燥した地域に成立する特殊な森林帯といえます。

中間温帯の原始の森林（極相林）はツガをともなったモミ林です。先人達はモミ林を伐採して農用林に造りかえてきたわけですから、このままコナラ林やアカマツ林を放置しておくとか、立派なモミの大原始林が再現されます。

尾田時丘を中心に大リゾート計画が進行していますが、自然風土の厳しい秩父盆地の将来はモミの雄大な原始林の方が、リゾートの主旨に合うと思うのですが、いかがでしょう……。

著者プロフィール



昭和5年埼玉県北埼玉郡大利根町生まれ。東京教育大卒。現在、埼玉太学教授。著書「埼玉四季の植物」をはじめ論文多数。

埼玉山草会の歩み

埼玉山草会は昭和三十六年六月の創立で、昨年は丁度三十五周年に相当する記念すべき年を迎えました。創立当時は物資不足の時代から漸く生活安定期に移り代る頃で、古来からのバラや菊、さつき、洋らん、おもとなどの愛好者は多く見られたものの、山草栽培はまだ黎明期といえる頃でした。

元埼玉大学教授・江森貫一先生を名誉会長に迎え、初代会長には当時開業医であった岡田実先生を推して、会員は僅か三十余名の山野草を愛好するものの集いとして発足をいたしました。その後山野草の素朴な魅力に惹かれて入会する者も多く、また当時のさつきブームからの転向者もあって会員は急増して、現在では約百五十名に達する盛況を迎えています。

会の目的には自然保護と併せて栽培技術の向上、趣味の普及、及び会員相互の親睦を図ることなどを掲げ、活動内容では月例会を始め春秋の山野草展示会、研修旅行、会誌「埼玉の花」の発行、それに会員配布用の種苗増殖の五項目が重点活動内容となっていました。

なっています。

月例会では協議事項のほか、会員持参の花自慢を始め、会員提供の種苗頒布、資料幹旋、それに勉強会としての研修会などが催されて終始和やかさと楽しさの漂う盛況ぶりです。特に活動の重点項目である種苗の自家生産による種苗頒布は人気も高く、自然保護の観点からも重要なことである上、廉価で初心者に喜ばれ収入のすべては会に繰り入れられて運営費が潤われています。



展示会は春秋の二回開催、春は浦和市のさくらそう祭と協賛して玉蔵院で、秋は文化祭に協賛して園芸植物園で開催し、種類も豊富で珍品も多く丹精こめた作品は観客の目を惹きつけてくれます。研修旅行は年三回で自生地の観察

と探勝をかねて行い、特に自生地保護についてはモラルの向上に努めるところです。会誌「埼玉の花」は創刊以来一回の休刊もないことは自慢で、現在三十五年記念誌の編集中、内容は参考資料も豊富で誌友も多く好評を頂いております。

山草栽培が今日のブームを呼ぶに至った理由にはいろいろ考えられますが、一つには種類が非常に豊富で変化に富み、四季を通じて楽しむことができる上、栽培の難易にもいろいろあって初心者にもベテランにも、または老若男女の別なく栽培できることなどが主な理由で、そのほかには華やかな園芸種に飽きて茶花的な素朴さや、余剰苗を草花に分けて友好を深めたり、適度の運動にもなって健康やストレス解消にも貢献できることなども考えられます。

最後に山草栽培に関連して重要なことは自然保護との関係で、栽培する山草も本来は山野の自生品であったことを思えば、その責任の一端は端的に認めざるを得ないところで、頭初は一部区域を除けば採集は天下ご免で、山行は最高の魅力で愉しく各地に続々と山草会も結成されて全国的なブームを呼び、その結果は栽培知識もない不心得な山草会や会員

も増加して手当たり次第に採集、貴重な植物すらも姿を消すに至って遂には山荒しの汚名すら耳にする始末となりました。

私達埼玉山草会では、山採りは全くの不法なことで会の存続にも関係する重大事項であることを反省し、山採りの全面禁止と種苗の自家生産に重点をおき、栽培技術の向上、特に造形的栽培に意を用いるに至ったものです。

しかし自然破壊の要因は必ずしも山草愛好者によるものばかりではなく、一例として県内事情を見ると、田島ヶ原のサクラソウは最早戦前の面影はなく、武甲山では固有のチチパイワザクラを始め、各種の貴重な好塩性植物も見るとの姿となり、各地に点在したエビネやウチヨウランが騰貴の対象として絶滅し、特異な例としては黒山三滝のアオネカズラで、天然記念物の標柱を建てたばかりに好気心を呼んで絶滅するといった例は各地にあります。最近では宅地造成や道路やダム、ゴルフ場の開発、森林伐採、天然災害なども自然保護と関係深いことと考えられます。

埼玉山草会長
華表賢



埼玉の野草

花の名前をいくつご存知ですか？あまり知られていませんが、埼玉県にも田島ヶ原のサクラソウをはじめ珍しい植物がたくさんあります。県立図書館所蔵の資料の中から、埼玉の野草にちなんだものをご紹介します。これを機会に身近な草花に親しんでみてはいかがでしょうか。

【図書】

上尾の植物誌 堀切史郎編 上尾市理科研究部 '79 (浦・熊・川・久)
市街化の進む上尾市の植物を、68年からほぼ10年間採集した記録。
入間市史 植物編 入間市史編さん室編 入間市 '84

市内の自然環境、植生、植物九五〇種の調査解説。付編で帰化植物、古木大木、植物化石についても記す。
岩槻市史 植物編 岩槻市 '81 (浦・熊・川・久)
市内の野生植物について類似種と

市内の野生植物について類似種と

の判別、語源等とともに解説。本州では珍しいキタミソウ再発見の調査記録も収録。
浦和の野草 浦和市教育委員会 '81 (浦)

季節ごとに市内で見られる野草のカラー図鑑。巻末では植物を使った遊びも紹介する。
大井町史 自然編 大井町史編さん委員会編 大井町 '86 (浦・熊・川・久)

本編中約40ページにわたり、大井町の植物相を中心に記載。
大宮の植物誌 大宮市緑のガイドブック作成委員会 '90 (浦・久)
林、湿地など環境ごとに市内自生の植物を記録。環境保護に視点。
川口市内の野生植物 川口植物の会 '83 (浦)

市内の植物目録。小・中学校の授業での教材化の事例なども紹介。
北川辺の自然 植物編 北川辺町自然観察会編 北川辺町史編さん委員会 '85 (久)

カラー写真の美しい植物図鑑。薬・食糧など野草の利用法も収録。
北本の植物 北本市郷土植物研究会編 北本市教育委員会 '76 (熊・川・久)
開発等の影響により市内から姿を

開発等の影響により市内から姿を

消しつつある野生植物の分布地域を記録し、形態や性質をやさしく解説。
久喜市史 自然編 久喜市史編さん室編 久喜市 '90 (浦・熊・川・久)

市内の代表的植物を選んで解説。植物の俗名、遊びなども紹介する。
暮らした中の植物 秩父地方の植物と民俗をたずねて 守屋忠之著 秩父地方で昔から食用や農耕等に利用されてきた身近な植物をとりあげる。秩父各地の植物方言も収録。
埼玉四季の植物 永野巖著 埼玉新聞社 '90 (浦・熊・川・久)

四季おりおりの植物の生態を楽しみく読める解説書。
サクラソウ 中沢製茶舎編 浦和市郷土文化会 '79 (浦・熊・川・久)
埼玉県花サクラソウの保護の様子や栽培方法を平易に記載。

埼玉県花サクラソウの保護の様子や栽培方法を平易に記載。



草加市史 自然・考古編 草加市史編さん委員会編 草加市 '88 (浦・熊・川・久)

市内野生植物の分布や植生の変遷を写真やデータ交えて解説。
秩父路の野草 夏秋・冬春編 鶴田知也文 井上光三郎写真 埼玉新聞社 '83 '84 (浦・熊・川・久)

秩父地方の野生植物を四季別に、カラー写真とやさしい文章で紹介。
鶴ヶ島町の植物 鶴ヶ島町史編さん室編 鶴ヶ島町 '90 (浦・熊・川・久)

町の緑を徹底的に調べるとともに、保全に関する具体的提言も収める。
都幾川村の植物 写真集 中澤利雄、小川伸幸編 都幾川村の植物刊行会 '82 (浦・熊・川・久)

著者二人が数年間をかけて撮影した村内植物の写真集。
戸田市の植物 戸田市立教育研究所編 増修版 戸田市教育委員会 '82 (浦・熊・川・久)

既刊の草本編に木本類を加え、写真もカラー化して充実を図る。
野に咲く草花 野草の観察と栽培の手引き 磯部昂著 長瀬町企画調整室 '88 (浦・熊・川・久)

風情のある草花の紹介に、著者の自然を愛する心が伝わる。



3月・6月の主な催し物

●県立浦和図書館

映画会

- 3月15日(金) 10時・14時
「モチモチの木(アニメ)」
—春休み子供映画会—
3月29日(金) 10時・14時
「アルプスの少女ハイジ」
—さくらんぼ坊やシリーズ—
4月17日(木)「さくらんぼ坊や1・2」
4月18日(木)「さくらんぼ坊や3・4」
4月19日(金)「さくらんぼ坊や5・6」
(3日間とも) 10時・14時
5月10日(金)「蝶がとぶ森」10時・14時
5月24日(金) 10時・14時
—明るい長寿社会をめざして—
「夫の定年・妻の定年」ほか
6月7日(金) 10時・14時
—くらしを考える—
「水からのメッセージ」いま食中毒は、「ゴミ減量作戦」
6月21日(金)
「埼玉の技」10時・14時
「さいたまの匠たち」埼玉の木地師

●県立熊谷図書館

映画会

- 春休み子ども映画会—
3月29日(金) 10時・14時
「ハレウィンの甘い歌声」ほか
—名作映画鑑賞会—
3月9日(土) 10時・14時
「イタズ」
4月6日(土) 10時・14時
「太陽の子」てだのふあ
5月11日(土) 10時・14時
「死刑台のエレベーター」
(ビデオディスク)
—金曜映画会—
3月15日(金) 14時
「もうすぐ一年生」ほか
4月19日(金) 14時
「ふるさと歩道・高麗の里」ほか
4月26日(金) 14時
「歩いてみませんか」関東ふれあいの道」ほか
5月17日(金) 14時
「お茶のつばやき」秋山茶」ほか
5月24日(金) 14時
「アンデスの人々と生活」ほか
—ビデオディスク映画会—
3月22日(金) 10時「エディット・ピアフの生涯」同14時「ストレンジャー・サン・パラダイス」
春休みビデオディスク・コンサート

●県立川越図書館

映画会

- 4月5日(金) 14時
「THE BLUE HEARTS LIVE」
—映画の集い—
3月15日(金) 10時・14時
「裸の大將放浪記」
4月19日(金) 10時・14時
「国家」鳥獣人物戯画」
5月10日(金) 10時・14時
—身近な環境問題を考える—
「きれいな水を求めて」わたしたちのくらしとごみのしまつ」ほか
5月24日(金) 10時・14時
「バードウォッチング」
「野鳥の巣箱」雷鳥の四季」ほか
—名作映画会—
3月16日(土) 10時・14時
「アンタックチャブル」
—春休み子ども映画会—
3月28日(木) 10時・14時
「ちびっこのカムフラージュ」
4月4日(木) 10時・14時
「ジャングル大帝」赤い翼」

●県立久喜図書館

映画会

- 「新ちゃんが泣いた」
3月7日(木) 14時
「無法松の一生」
—名画鑑賞会—
3月9日(土) 10時・14時
「月の輝く夜に」
—春休み子ども映画会—
3月28日(木)「まえがみ太郎」
4月4日(木)「海ガメさんのちえ」
「くまのプーさん」イーヨのおたんじょう日」ドナルドダックのどんぐり騒動」ドナルドダックの消防夫」
4月5日(金)「白雪姫」
4月12日(金) 14時
(3日間とも、10時・14時)
「古今和歌集」松尾芭蕉」井原西鶴」
4月26日(金) 14時
「小さな家族」
5月10日(金) 14時
「国家」鳥獣人物戯画」
5月24日(金) 14時
—大人も楽しいアニメーション—
「モチモチの木」馬の田楽」木龍うるし」
※催し物はすべて入場無料です。

飯能市史 資料編2 飯能の自然

植物 飯能市史編集委員会編 飯

能市 77 (浦・熊・川・久)

飯能市発祥のハンノウツツジ・ハシノウザサをはじめ、市内に自生する植物の写真及び解説目録。

東松山市植物誌 岩田三男次編 東

松山市教育委員会 72 (浦・熊・川・久)

絶滅の危機に瀕する浦・小紫式部などを含む自生植物の調査記録。

武甲山の植物 写真集 守屋忠之解

説 井上茂写真 武甲山植物群保

護対策推進協議会 78 (浦・熊・川・久)

国の天然記念物でもあるチチブイワザクラ、ミヤマスカシユリなどの石灰岩地特殊植物群落。採掘により消滅の運命にある武甲山の植物を残す貴重な写真集。

ふるさとの植物 埼玉県指定天然記

念物他 加藤亮明著 大宮植物同

好会 77 (浦・熊・川・久)

県内の国指定、県指定の天然記念物を写真入りで解説。

皆野町史 自然編2 植物 皆野町

史編集委員会編 皆野町 84 (浦・熊・川・久)

皆野町に自生する高等植物、キノ

コ類の写真及びその解説目録。

武蔵野の草と人 太田三郎著 金星

堂 20 (浦)

黒田清輝に師事した著者の手による画文集。「浮間の桜草」など古き武蔵野の面影を伝える。

ムジナモとその生育環境 ムジナモ

保護増殖事業に係る調査団編 羽

生市教育委員会 82 (浦・熊・川・久)

国指定天然記念物、宝蔵寺沼の食虫植物ムジナモの研究と、保護につ

いての報告書。

八潮市史 自然編 八潮市 86 (浦・熊・川・久)

市内の野生植物のみならず、人間の生活と深く関わりのある栽培種についても調査を加える。

野草12か月 宮代町教育委員会編

初教出版 88 (浦・熊・川・久)

野に咲く花を月ごとにカラー写真

で紹介する。

与野植物誌 与野市史自然編別冊

与野市史編さん室編 与野市 78 (浦・熊・川・久)

急激な開発により変貌をとげつつ

ある市内の植物相を記録にとどめる。

寄居町の自然 植物編 寄居町教育

委員会町史編さん室編 寄居町教

育委員会 81 (浦・熊・川・久)

県指定天然記念物ミミカキグサ・

モウセンゴケをはじめ、1000種を超

える豊富な植物を収録。

両神山の植物 岩田豊太郎著 77 (浦・川)

両神山における植物調査の記録。

【雑誌】

みどりの埼玉(季刊) 埼玉県環境

部自然保護課 76 (浦・熊・川・久)

植物のみにとどまらず広く自然保

護を呼びかけ、庭木の手入れなどに

も触れる。

埼玉生物(年刊) 埼玉県高等学校

生物研究会 59 (熊・川・久)

研究会の一年間の成果を報告する。

埼玉山草会誌(第1・25号) 埼玉

山草会 57 (浦・熊)

山野草の栽培法から山野草にちな

んだエッセイ、俳句など幅広くとり

あげる。

【16ミリフィルム】

はんなり、はんなり」藤 埼玉県教

育委員会制作 カラー20分 85 (浦)

藤の名所を県下に訪ねる。(「さき

たまの丘から」テレビ埼玉放映)

ナシの花咲くまち 埼玉県教育委員

会制作 カラー20分 85 (浦)

県の特産梨の花を訪ねる。(「さき

たまの丘から」テレビ埼玉放映)



「コンパクト・デスク」

くまがいそうの詩 くまがいそう保

存会、NTT熊谷支店制作 89 (浦・熊・川・久)

クマガイソウのうたをソロ、デュ

エット、コーラス、フルートとハー

プの演奏で収録。

【録音テープ】

さいたまママさんコーラス大賞 さ

いたま博実行委員会制作 88 (熊・久)

県内の市町村のイメージソングを

収録。「矢車草のふる里(加須)」、

「月見草の咲く頃(本庄)」、平林寺の

すみれ(新座)などを含む。

※(一)内の略語は、各館の所蔵を

表わします。

浦：埼玉県立浦和図書館

熊：埼玉県立熊谷図書館

川：埼玉県立川越図書館

久：埼玉県立久喜図書館



名 称	概 要	所 在 地
① 田島ヶ原サクラソウ自生地	荒川堤内にある武蔵野古来のサクラソウの原種の自生地、四・二ヘクタール。初指定大正九年七月十七日	滑川町大字西郷
② 吉見百穴ヒカリゴケ発生地	蛍光色の反射光を呈する細孔が出現、平地には珍しい。	吉見町大字吉見
③ 武甲山石灰岩地特殊植物群落	デンドロビウム、ミヤマササノリなどの自生地、武甲山の北側に群生	横瀬町大字横瀬
④ 宝蔵寺沼ムシナモ自生地	静水に浮生する食虫植物の一種、本邦唯一の自生地	羽生市大字三田ヶ谷
⑤ ステコビル	ユリ科の多年性植物、我が国では稀な植物	坂戸市大字新郷
⑥ 堂平ヒカリゴケ自生地	腐食の岩隙に自生する	小川町大字堂平
⑦ 仙女ヶ池の食虫植物群落	モウセンゴケ、ミミカキグサ、タヌキモの自生地	日高町大字女形
⑧ 見返坂の蘭庭ササ	牧野嘉太郎博士の発見したササ、高さ一・五メートル、葉は羊歯葉表面に短毛	飯塚市飯塚
⑨ 道元平ワラジ口群落	湿地性(千葉県が北限)葉の長さ一・二〜一・五メートル	玉川町大字田島
⑩ ミミカキグサとモウセンゴケ自生地	上流の湿地、食虫植物の自生地	寄居町大字鉢形
⑪ 加須の茅野とその植物	高麗芝原や北方性の草原植物	加須市大字篠崎

名 称	概 要	所 在 地
⑫ 両神村のフクジュソウ群落	茶臼植物、三八〇〇以上の群落、二月下旬に開花する。標高六〇〇〜一〇〇〇メートルの山中に自生	両神町大字小森、大字湯
⑬ 黒山の特殊植物群落	湿地性の植物、シシラン、アオネカスラ等生育	越生町大字黒山
⑭ てんぐ岩のムカデラン	湿地性の寄生ラン、自生の北限地、イフヒノ等と共生している	吉田町大字阿久
⑮ 久那のステコビル	日本特産、ユリ科に属する。山林中地の植物と共生	秩父市大字久那
⑯ 大馬取山のコシダ群落	湿地性の植物、静水以北には自生地はまれである。約二ヘクタール、自然林の下草として生育	越生町大字上野
⑰ 三浦のヒカリゴケ自生地	奥行五メートルの洞窟内のヒカリゴケ自生地、堂平山の中間	飯塚町大字西平
⑱ 藤原寺のモミ及び蒼生植物	モミは高さ三メートル幹回り四・五メートル、幹及び枝にセキコクが群生、落葉の多い湿地性植物	越生町大字藤ヶ谷

埼玉県教育委員会「埼玉県文化財目録(平成元年1月現在)」より

「ご存じですか」

国営武蔵丘陵森林公園 ―野草コース―

野草を集めた施設、ということでは探してみると、身近にありました。遠足などでおなじみの森林公園、その一角に素敵な「野草コース」が設けられています。

「野草コース」の入口までは、森林公園南口(又は中央口)から自転車か園内バスで、コース内は徒歩で回ります。一周約15分のコースの両側には、自生種18種を含む69種の野草が大切に育てられていて、名称の表示を見ながら四季折々のきれいな花を楽しむことができます。

自然を残したコナラ・クヌギ林を抜け、沼を渡ると明るい芝生地が広がります。簡易舗装はされていますが、起伏の多い道です。歩きやすい靴がおすすめです。開花期間は一月〜十一月、春と秋には花が咲く、六月のヘメロカリスは九千株の群落が大変美しいとのこと。以下、代表的な野草で「花暦」を作ってみました。お好きな花を訪ねて、一度いかがでしょうか。

(花は大切に、決して折らないで！)

花 暦

野草名	科名	開花時期
フクジュソウ	キンポウゲ	3〜4月
チゴユリ	ユリ	4〜5月
ヘメロカリス	ヤリ	6月
ホタルブクロ	キキョウ	6〜7月
ヤマユリ	ユリ	6〜8月
オオバギボウシ	ユリ	7〜8月
ミソハギ	ミソハギ	7〜8月
ホトトギス	ユリ	8〜10月
ヤマシノホトトギス	ユリ	8〜10月
ヤクシソウ	キク	8〜11月
ヒガンバナ	ヒガンバナ	9月
リュウノギク	キク	10〜11月

所在地 滑川町山田一九二〇番地
電話 〇四九三二五六一二二二五
交通 東武東上線森林公園下車・バス又は貸自転車利用

編 集 後 記

例年にも増して、春が待ち遠しかった今年。この地に、穏やかな春が一日と広がる喜びをひしと感ずります。

春を迎えた喜びを、巻頭ページの一面に表して下さった秩父市在住の井上さん。主題の野草さんは、県内の植物を特徴づける森林をテーマにして、自然と開発の調和を、そして埼玉山草会の活動は、山草を愛する会の原点をそれぞれ訴えています。急激な開発が進む本県。もっとも緑と自然を大切にしたいものです。